

2022年度（2023年3月期）第2四半期決算説明会における質疑応答

日 時 2022年11月8日（木）13:30 ~ 14:30
 形 式 電話説明会
 説 明 者 代表取締役 副社長 酒入 和男
 企画統括部長 多和 淳也

【2022年度第2四半期の実績について】

質問	回答
投資 CF について、2022 年度の投資の進捗は現時点で計画通りか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足元、国内の安定供給への対応に軸足を置き、当初の計画から一部の投資がやや後ろ倒しになっているものがある。ただし、この状況は一時的なものであり、事業計画で示している投資計画を大きく変える程には至っていない。
デリバティブ債権・債務の考え方について。貸借対照表上の計上額が増加している理由は。デリバティブ債権・債務の計上が増えることによるリスクはどのようなものがあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度から続くデリバティブ債権・債務の増加は、資源価格の高騰により、取引の未決済残高の時価が膨らんだことが要因であり、取引数量自体は大きくは増えておらず、実質的なリスクは増えていないと評価している。 ・ 今後、資源価格が落ち着いた場合、デリバティブ債権・債務も減少するものと想定している。

【2022年度見通しについて】

通期のセグメント別見通しについて解説が欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年度通期見通しのセグメント別の内訳について、燃料事業は上半期の好調を踏まえ、1,400 億円程度の利益を見込む。一方、海外発電事業はほぼ利益を見込んでおらず、国内火力・ガス事業は燃料費の高騰等を受け、調整額と併せて▲400 億円を見込んでいる。
下半期におけるフリーポート LNG 基地の火災の影響はどの程度を想定しているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ フリーポート LNG 基地の火災影響は通期で 1,100 億円を見込んでいる。その内、上半期で 481 億円の損失を計上しており、残り 600 億円程度が下半期の影響となる。
JERAGM が好調だが、実力利益の水準はどう考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ JERAGM は、資源市場がひっ迫する中、JERA の安定供給において重要な役割を果たした。資源価格の変動が大きかったため、結果として当初想定していた利益水準を上回る成果を上げた。
下半期に国内火力・ガス事業が損失となる要因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内火力・ガス事業における電力販売については、基本的にはコストが回収できる仕組みとなっているが、事業環境の大きな変化（ロシア・ウクライナ問題等に起因した資源

	<p>価格高騰、株主小売会社への戻り需要等) によって、一部で回収漏れが生じた。しかし、これは一時的な事象であり、恒常的に生じるものではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ また、フリーポート LNG 基地の火災影響により下半期に 600 億円程度の損失影響が出る見込み。
フリーポート LNG 基地の火災以外で、下半期の国内火力・ガス事業の収支悪化要因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通期の国内火力・ガス事業では、フリーポート LNG 基地の火災以外の要因として、今後の資源価格の状況や冬場の需給動向による燃料調達の数値・価格変動等を踏まえ、調整額と併せて▲400 億円程度と想定している。
近年の JERAGM の利益を踏まえると、2022 年度の燃料事業の利益見通しは保守的ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上半期の好調は、上半期のみが発生した特殊要因が背景であるとの判断から、下半期の想定には織り込まずに通期見通しを算定している。

以 上

将来の見通しの記述について

本資料にある計画、戦略、業績予想等に関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、為替レート等不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境等が本資料の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。